

緑のカーテンをつくらう！



○緑のカーテンとは？

ツル性植物の特性を利用した「自然のすだれ」です。植物の葉で日光をさえぎる効果と、葉に日光があたった時に、表面温度を下げようと蒸散作用が活発になるので、室内の温度上昇を抑える効果があります。

○地球温暖化対策について

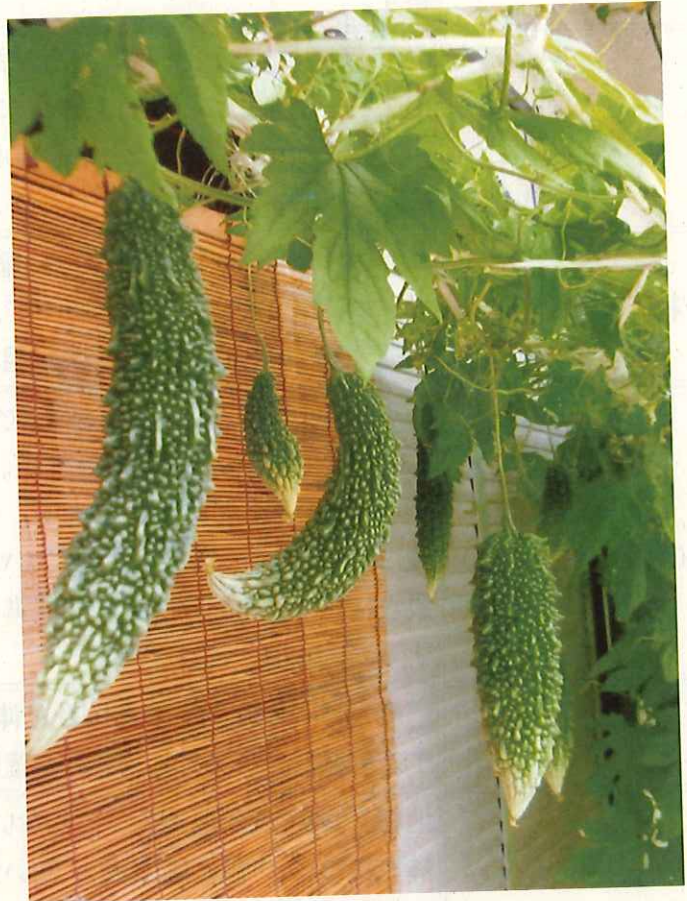
政府は「地球温暖化対策」として、家庭やオフィスの二酸化炭素排出量を2030年度までに現在より約40%減らすことを目標としています。「緑のカーテン」をつくって、空調機器の使用をなるべく抑え、節電につとめましょう。

○「緑のカーテン」写真募集！

取り組んでいただいた写真や感想をお寄せください。市公式ウェブサイトなどでご紹介します。

ゴーヤーの特徴

熱帯アジア原産の野菜でツルレイシとも呼ばれています。果実は苦み成分があり、食欲増進と夏バテの防止に役立ち、ゴーヤーチャンプルーなど沖縄料理には欠かせない野菜です。



株間(地植え)	90cm
株間(プランター)	1株
緑のカーテン用 タネまき時期	5月上旬～5月下旬
収穫時期(温暖地)	7月中旬～10月下旬
ネットの網目サイズ	10cm程度

栽培環境	日当たり、水はけ、風通しのよい畑で栽培します。ゴーヤーだけでなく、キュウリ、カボチャ、シロウリ、マクワウリなどウリ科作物の連作はさけます。植えつけの約2週間前に1㎡あたり苦土石灰 150g、1週間ほど前に完熟堆肥 3kgと有機配合肥料 80~100gを目安に施します。株間約 90cmを標準とします。
タネまき	発芽適温(地温)25~30℃を確保してタネまきします。タネの皮が厚くかたいので、一晩水につけてからタネまきすると発芽が早まります。3号(9cm)ポットに4、5粒ずつまいて、1cmくらい土をかぶせます。元気のよい苗を1本残し育苗します。
植えつけ(定植)	ニガウリは低温には弱いので、植えつけは地温が十分に上がってからします。本葉4、5枚の苗に仕上げ、株間 90cm前後で植えつけます。65cmほどの深型プランターでは1株が目安です。
管理のポイント (栽培のポイント)	つるが伸びてくるので、支柱を立てます。整枝は本葉5~6枚のときに摘芯をして子づる3~4本伸ばします。栽培期間が長いので、生育のようすを見ながら、株のまわりに追肥します。 親づる(主枝)には雌花が少ないので、摘芯して子づる(側枝)や孫づるに着果させます。株間が狭いと、生育後半につるが重なり、虫の飛来も少なくなり、着果がわるくなります。
施肥	窒素肥料が多いと、つるばかり伸びて果実がつかない「つるボケ」を起こします。元肥を少なめにし、着果を確認してから追肥します。
水やり	地植えは晴天が長く雨が降らないとき、水やりをします。 鉢・プランター植えは表面が乾いたら、底から水がでるように水やりをします。
病虫害・生理障害	病気には強い作物ですが、うどんこ病やべと病などを予防するため、株間を広くとり、日当たりと風通しをよくします。ウリ科作物の連作は、つる割病が発生しやすくなるのでさけます。アブラムシは、葉に集団で寄生して吸汁し、株を弱らせます。早期に防除をします。ハダニは葉裏に強く散水をして、流し落とします。
楽しみ方	ゴーヤーは草勢が強く、乾燥にも強い植物です。「緑のカーテン」に適した植物です。
収穫・保存・利用	開花後 15~20日たち、果実の形ができたなら収穫します。とり遅れると生育が早いので、すぐに色づき、果皮が裂けてしまいます。また、とり遅れると株が疲れる原因にもなるので、若どりを心がけます。沖縄の名物料理「ゴーヤーチャンプルー」は豆腐、卵、豚肉などといっためたものです。酢の物、漬物にも利用できます。

つるありインゲンの特徴

鮮やかな緑色で長さ 15~17cm、幅 1.5cm になる平莢の品種です。タネまき後、約 58 日ほどで収穫できる極早生種です。



株間(地植え)	30~40cm
株間(プランター)	30cm
緑のカーテン用 タネまき時期	4月上旬~5月下旬
収穫時期(温暖地)	5月下旬~7月上旬
ネットの網目サイズ	10cm程度
その他	葉が茂りやすいが、暑さで実がなくなくなり夏越しが難しい

栽培環境	<p>植えつけの2週間前に1㎡当たり苦土石灰 100g、1週間前に完熟堆肥2、3kg、有機配合肥料 80～100gを施します。株間 30～40cm を目安とします。</p> <p>インゲンの好適 pH は 6.0～6.5 で酸性土壌をきらいませす。タネまきの2週間以上前に苦土石灰などで pH 調整します。インゲンの根は分岐根が少ないため 断根に弱く、移植をきらいませす。育苗の場合は本葉2、3枚の小苗で移植し、植え傷みしないようにします。過湿で根が傷むと、下葉が黄化して落ちませす。高畝 にするなど水はけをよくします。インゲンだけでなく、エンドウ、ソラマメなどマメ科作物の連作はさげませす。</p>
タネまき	<p>1か所3～5粒ずつ点まきにします。本葉1、2枚のころに間引きし、支柱を立てませす。根鉢と植え穴に十分水やりして、浅植えにします。</p> <p>インゲンの発芽適温(地温)は 20～25℃です。地温が低いとタネが腐り、発芽ませせん。早まきする場合は、温室などで発芽適温を確保してポット育苗します。タネは水につけないでまきませす。</p>
植えつけ	<p>本葉2、3枚のころ植えつけませす。65cm ほどの深型プランターでは2株を目安に植えつけませす。地植えでは株間約 30～40cm が目安です。</p>
管理のポイント (栽培のポイント)	<p>梅雨後の高温、乾燥に備えて敷きワラをします。</p> <p>土壤水分が不足すると莢がかたくなります。乾燥を防ぐために敷きワラや水やりをします。また、収穫が遅れると莢がかたくなります。とり遅れると株への負担が増え、株が弱りませす。</p> <p>30℃以上の高温が続くと落花が多くなり、収量が少なくなります。収量を多くするには、5月にタネまきし、暑くなる前に収穫を終えるようにします。また、窒素肥料が多いと、つるボケして着果がわるくなるので、元肥を少なくします。マメ科作物なので肥沃な畑は、追肥の必要がありません。つるあり品種ならば、摘芯して側枝を伸ばすと着果は早まりませす。</p>
施肥	<p>追肥は収穫はじめから行い、花・莢がついてきたときや、収量が増加したときに遅れないようにします。乾燥時には葉面散布や液肥を与えませす。</p>
水やり	<p>鉢・プランター植えは表面が乾いたら、底から水がでるように水やりをします。</p>
病害虫	<p>マメ科作物の連作をさげ、日当たりと風通しと水はけをよくし、炭そ病や根腐病などの病害を防ぎませす。アブラムシは、葉の生育を阻害し、モザイク病を媒介するので、早期発見、早期防除に努めませす。アブラムシは光るものを嫌う習性があるので、シルバーマルチをすると効果が期待できます。ハダニは乾燥で発生が多くなるので、敷きワラをするなどして畑を乾かさないようにします。</p>
収穫・保存・利用	<p>「ジャンビーノ」の場合、莢がふくらみ、長さが 15～17cm になったころが収穫適期です。収穫 時に株を傷つけないことが良品多収につながりませす。盛期には収穫を朝夕2回行いませす。とり残すと株の負担が大きくなるので、適期に収穫します。タネまき後 58 日ほどでとれ始め、40～50 日間続きます。収穫したインゲンは、鮮度が低下ないように日陰に置き、ポリフィルムなどで覆って水分の蒸散を防ぎませす。</p>

大輪朝顔の特徴

ヒルガオ科サツマイモ属の一年草です。アサガオは日本を代表する草花の一つです。生育旺盛で育てやすく、品種改良も盛んで多種多様な品種があり花色、花径もさまざまです。



株間(地植え)	30cm
株間(プランター)	20cm
緑のカーテン用 タネまき時期	4月下旬～5月下旬
開花時期(温暖地)	7月中旬～10月下旬
ネットの網目サイズ	10cm程度

栽培環境	夏の高温と強い日ざしでぐんぐんと生育するアサガオは、日当たりと風とおしのよい場所を好みます。梅雨寒むのときは生育が止まったようになります。植えつけ前の小鉢では保温管理します。植えつけ後の株ではそのまま気温が高くなるのを待ちます。
タネまき	発芽適温は約 25℃前後と高温を好むので、暖かい地域でも 5 月に入ってからタネまきします。ジ フィーセブンや9cm ポットに培養土＝タネまき用土を入れて2, 3粒のタネを1cm ほどの深さでまきます。タネまき後は十分水をやり、発芽するまで表面が 乾燥しないように注意します。発芽後子葉が十分に開いたころ、最も生育のよい株を残して 1 本に間引きします。
植えつけ	鉢に根がまわり本葉が2～3枚になったころ植えつけます。株間 30cm 前後で植えつけます。65cm ほどの深型プランターでは3株が目安です。
管理のポイント (栽培のポイント)	植えつけ後4～5節のところでは摘芯をすると、各節から枝が出て多くの花を楽しむことができます。草勢が強く気温の上昇とともにぐんぐんと生育します。とくに支柱やネットは早めにしっかりと準備します。肥料切れを起こすと葉が黄ばみ、斑点病の発生や花 が小さくなるので、注意が必要です。
施肥	栽培期間が長いので肥料切れを起こさないように月に一度、化成肥料を株元に5～10g、ばらまくように追肥します。 7～10 日に一度1～2,000 倍の液肥を水やり代わりに施します。
水やり	地植えは、晴天が長く雨が降らないとき、水やりをします。 鉢・プランター植えは表面が乾いたら、底から水がでるように水やりをします。
病虫害	葉の食害アオムシです。葉が部分的に黄色く変化して、小さな斑点が目立つときは、ハダニの発生が疑われます。肥料切れが斑点病が発生しやすくなります。
開花期	樹勢が強く日よけの生け垣栽培に適します。長く花を楽しむため、タネがつかないよう花がらをこま めにとります。植えつけ後4～5節のところでは摘芯をすると、各節から枝が出て多くの花を楽しむことができます。開花持続性は一般的なアサガオに比べて長 く、霜の降りるころまで咲き続けます。
その他	花が咲かない要因 夜の明るい場所＝夜間光の当たらない場所 日照不足＝日当たりのよい場所 茎葉ばかり繁る＝肥料を施さず、水やりも控える